

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑 (2階)		
所在地	〒839-0851 福岡県久留米市御井町2011番地		TEL 0942-45-0967
自己評価作成日	令和04年10月24日	評価結果確定日	令和04年12月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和04年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課を設けておらず、日頃から利用者の意向に沿った支援ができるように日々取り組んでいる。コロナ禍で外出出来ない日々が続いたが、敷地内で育てたプランターで家庭菜園を行っており、花の水やりや収穫した食材で利用者と一緒に調理を楽しんだりしている。利用者一人ひとりの生活に合わせて排泄支援や休息支援を就寝時間を考慮しながら支援している。職員が動きやすいように役割や担当者を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りを行う際に出勤職員で理念を唱和している。その人らしい日常を過ごすことができるよう支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での交流が困難な部分も多かったが、散歩に出かけた際には地域の方々と言葉を交わしたり、苑周辺の清掃や台風などの災害前には近所の方に声を掛け、災害対策などお手伝いできることはないかと訪問している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑近くにお住まいの方が職員退社時に声を掛けられることもあり、グループホームにはどういった方々が入所されているのか、どういった生活をされているのかなど説明、認知症にならないための食事、運動の大切さなどお話ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が出来ないことも多かったが、苑での活動状況などの書面報告を継続している。それに対し、意見や地域の報告も頂き返信して頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市町村の担当者も参加されている。日頃から事業所の活動状況など密に連絡しており、開催時には地域と繋がりがもてるような意見交換を行なっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は随時行っており、日頃から身体拘束を行うことについてのリスク検討や、認知症が悪化しないための支援方法を全職員で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための研修を随時行っている。虐待を起こさないための取り組みを意識するためにも、苑が掲げた理念が実践できるよう皆で話し合いながら日々の業務を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用している。後見人との話し合いを通して色々と学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を使い、納得していただけるよう努めている。利用料など変更が生じた時には、毎回、ご家族に通知を出している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、利用者やご家族からの要望が出た際には会議などで取り上げ、今後の支援向上につなげている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	支援内容や業務に関する意見など出た際には会議やカンファレンスなどで話し合い、改善していけるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに苑での支援目標を掲げ、それが達成できるように会議を行う度に、毎月の資料に掲載している。支援目標を念頭に置いた支援ができるように業務調整など心掛けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	働きがいのある職場作りとなるための取り組みとしても日課を撤廃。利用者の方々とお話しながら、利用者のために職員一人ひとりが日々の支援内容を考えながら、自由に支援できるように取り組んでいる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者も職員も共に支え合える関係が築けるよう支援に取り組んでいる。職員の年齢層が幅広いが、理念を念頭に置いて、利用者も職員もお互いを理解、支え合いながらの支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン動画研修に今年から取り組んでおり、職員はいつでも好きな時間に研修を受けることができる。必須研修以外にも様々な研修動画があり受講可能。外部研修案内の資料などあればその都度、周知している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターを中心とした御井校区地域密着型事業所の集い「御井会」に参加。LINEや電話で近況報告や情報交換を行っており、サービスの質を向上していけるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族を交えた話し合いの場を設けており、どのような暮らしを望まれているのかの確認を行なっている。必要に応じて入所を体験してもらするなど、要望に沿った暮らしが実現できるように取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご自宅での様子、困りごとなど傾聴し、本人様らしい暮らしの実現ができるように努めている。コロナ禍で面会にも制限があったが、可能な限り、ご家族の要望に沿った対応を心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談などでの情報提供をもとにニーズを見極めながら、医療機関など他のサービス利用も含めた支援を行なっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様、職員とで一緒に洗濯物を干したり畳んだり、寝具のシーツの交換など日々の暮らしの中で支え合いながらの日常が実現できるように支援に努めている。利用者の方それぞれの出来ることを探しながら、出来ることを可能な限り一緒に取り組んでいるように支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に担当職員が毎月手紙を書いており近況報告を行なっている。また、何かあればその都度電話連絡を行い、ご家族の要望などその都度伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を講じながら面会を継続中。馴染みのある方などへの面会もご家族の要望に応じながら対応している。馴染みのある場所や住まわれていた自宅への外出支援などにも取り組んでいる。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆様が穏やかに安心して楽しく過ごしてもらえることを念頭に置きながら、食事等の席の場所の配置なども検討している。利用者の方が他利用者の方のお世話をすることもあり、利用者の皆様が支え合って日常生活が送れるように支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族の要望があればその都度対応している。必要と思われる時は、可能な限り情報提供をできる範囲で行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方向士や職員との日頃の会話の中で得たことも情報として記録に残すように努め、情報を共有している。その時々思いなどを確認しながら、希望に沿った支援ができるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みのある暮らし方については、入所時に本人、家族から聞き取りを行なっている。入所後も本人様から話を聞いたり、仕草、行動などの把握に努め、必要に応じながらご家族や関係機関などその都度聞き取りを行なっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や職員からの報告などで過ごし方や状態などの把握に努めている。また、日常生活動作やレクなどを行う中で、利用者の方がどのようなことが出来るのかの能力の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の方それぞれに担当の職員を配置しており、カンファレンスを行う度にアセスメントに取り組んでもらっている。カンファレンスではアセスメントをもとに職員全員で意見を出し合いながら、ケアプランに反映している。主治医や医療関係機関などからも意見を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に変化を感じた時には記録に残し、申し送り時に報告することで情報共有に努めている。申し送りの他、各職員が記録や連絡帳を読み、日々の支援の在り方を工夫し、介護計画の見直しを行なっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化していく利用者の状態に合わせてニーズの把握に努めている。散髪や買い物などの対応、体調の変化時にもご家族の要望も確認しながら最善の対応ができるように、柔軟な支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源との協働は困難にあった。感染者数も減少してきており、以前のように地域の美容室、スーパーを利用するなど、地域に関わる暮らしに努めていきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前から受診されていた医療機関と連携をとったり、本人、ご家族の同意のもとで事業所協力医療機関の医師をかかりつけ医に移行、体調変化の有事の際に迅速に対応できるように医療支援を行なっている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化を見逃さないように観察し、必要なことは記録に反映、連絡帳を通じて職員全員に周知するよう努めている。苑の看護師にもその都度報告しており、受診や往診対応など適切な医療につながるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を関係者に提供している。入院中も担当SWと連絡を取り合い、ご家族にも安心していただけるように必要な事柄を報告しながら、退院後の生活に向けた取り組みを行なっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所中、体調の変化に応じながらその都度、看取り期に備えた意向確認を本人、ご家族に行なっている。かかりつけ医とも話し合いながら、今後の支援方針を全職員、ご家族、関係機関とも共有しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修を受け、夜間でも適切な対応ができるように備えている。連絡網を作り、慌てず、適切な行動ができるように備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に防災訓練を行っており、必要な手順を忘れないようにしている。訓練後は意見を出し合い、職員全員で防災対策を検討している。また、近隣住民の方にも訓練に参加していただいたこともある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼な言葉掛けにならないことを念頭におき、馴染みのある方言を交えて理念に沿った支援を心掛けている。人権を尊重し、歩んで来られた人生を考慮しながら言葉掛けを行うように努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情を観察し、悩んでいることや訴えたいこと、何を望まれているかに耳を傾けている。対応できることは最善を尽くして支援できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を設けておらず、利用者の意向を反映できるように支援に努めている。気分転換にベランダでの外気浴や散歩、ドライブにも出掛けられるよう柔軟に支援ができるように取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着たい洋服はないかを確認したり、外出される度に上着を選んでもらうなど、本人が選択できるように支援している。洗面所に行かれない方には鏡を持参し、ご自身で整容していただけるように取り組んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は楽しんでいただけるような話題を提供しながら、利用者と一緒に食事の準備や後片付けができるような取り組みをしている。食事の進み具合をみながら、調理を再度対応したりと、その方の嗜好に合わせた食事の提供ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良時や嚥下機能に応じて食事形態を調整している。体重測定を毎月しており、体重の変化をみながら白飯の量を調整。食事が減少傾向にある方は、夜間に目を覚まされた時など声を掛けており、空腹で過ごされないように気にかけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて口腔ケアの支援を行なっている。義歯を使用されている方は定期的に洗浄剤を使用。看取り期には不潔に陥らないように必要な物品をご家族に相談しながら準備、こまめに口腔内の清掃に取り組んでいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとっており、トイレで排泄していただけるよう声かけや誘導を行なっている。排泄リズムの把握に努め、無理強いしない範囲で水分補給の支援も行なっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に陥らないように利用者によっては食物繊維を多く含む健康食品を提供している。トイレで排便ができるように姿勢を工夫したり、腹部マッサージに取り組んでいる。主治医にも状態報告、相談しながら、お薬の調整、頓服使用を行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設けておらず、その方が望まれた時に入浴ができるよう支援している。入浴を断られたときは無理に勧めず、柔軟に対応するよう支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や生活習慣に合わせた休息支援を対応している。声の掛け方を工夫しながら、眠れない方がいる時は温かい飲み物を提供したりと、穏やかに安心して過ごせる環境作りに努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明を求められた時には納得していただけるように対応している。新しく薬が処方された時は、ご家族にも報告しており、目的や今後の支援方針などその都度説明を行なっている。変化があった場合には、苑の看護師に状態報告を行い、主治医の指示をその都度受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍ということもあり規模は小さくなったが、季節に合わせたイベントに取り組んでいる。利用者の要望に応じて、一緒に調理を楽しんだり、花見のドライブ、散歩などの取り組みを行なっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍を考慮して多人数での外出は控えている。利用者数名と近くの公園への散歩やドライブに出掛けたり、敷地内で外気浴を行なっている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向やご家族の要望に応じて少額のお金をお渡しし、管理してもらっている。買い物時に支払われる際には職員が付き添い、利用者に支払いをしてもらえるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば家族にも相談しながら対応している。年賀状や暑中見舞いの葉書きにも利用者に一筆書いていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けを利用者と一緒に作成したり、テーブルには草花を飾るなど季節を感じていただける工夫をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活動線を考慮したテーブルや席の配置をしている。天気の良い日はベランダに出て外気浴、気分転換ができるように声を掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具や小物があれば持参してもらっている。今までの生活環境に少しでも近づけ、穏やかに安心して過ごしていただけるよう支援している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札を利用者の視線に合わせて設置、身体機能に合わせてベッドか敷布団を選択したりと本人と話し合いながら対応している。家具にクッション材などを取り付けるなどの工夫もしている。		